

山桜の里 戸赤

町観光協会からも人と出店の応援

花より祭り方が早かった第14回目

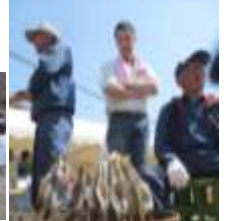
4月29、30イベント、見ごろは連休後半だった



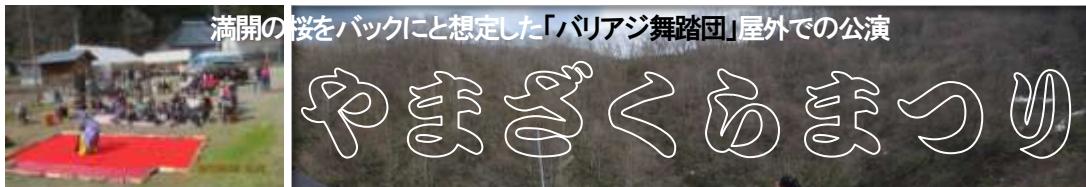
手打ちそばは欠かせない名物に定着



天気にも恵まれた2日間



ニジマス塩焼

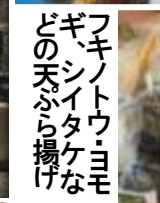


満開の桜をバックにと想定した「バリアジ舞踏団」屋外での公演

やまざくらまつり



豆類



どぎふきの天ぷら揚げ



自家製みそ



焼き鳥



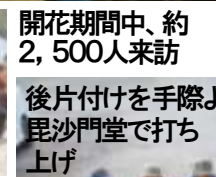
つきたて餅パック詰め



切り餅(とちもち)



テントの一角に下郷町の観光PRコーナーも



開花期間中、約2,500人來訪
後片付けを手際よく済ませ
毘沙門堂で打ち上げ



切り干し大根



凍み大根



村外ボランティアにも支られた



箱入り花豆パイ



ほおずきジャム



花豆



花豆パイ



つきたて餅(あん、きなこ)・玉コン・天ぷら



トラ豆など

【木地の学習No.74】大滝ひかわに関しては、延宝八年、貞享、正徳の記述で終わっているところをみると比較的早く消滅した木地小屋だと思われる。茂庭は宮城県七ヶ宿町湯原と隣り合わせの地である。寛文七(1667)年、両村の間で稲子山一帯の帰属をめぐる境界争いがおきた。稲子周辺は古来から木地師の稼ぎ場であり、木地関連の地名を拾うことができる。大小屋沢、木地挽沢、板小屋沢等であり、またこの絵図には、「木地挽十郎左エ衛門畑有。湯原木地挽がくこ仕候跡有。太郎左衛門・十郎左工門屋敷跡。太郎左衛門妻墓、十郎左工門墓」、沼平には「湯原木地挽六人住居之屋敷跡」の書き込みがある。沼平については「御境論留」に「論所山中沼平湯原之木地挽内蔵允、助左工門、源七郎、弥右衛門、金蔵、久作従寛永七年至同十五年住居之屋敷跡并内蔵允嫡子惣五郎墓所有之由」とあって寛永期に木地氏師が存在していたのがわかる。この後木を伐り尽くし峠田村(七ヶ宿町)茂ヶ沢に移ったとされる。横川の二瓶文書「書上」より先祖の移動を見てみると、近江国愛智郡→永禄年中越後→元亀年中会津、米沢山→天正二年湯原村稲子御林のうち馬立沢上屋敷→慶長年中峠田村茂ヶ沢→貞享二年再び湯原村稲子後沢→元元元年戻峠田村横川(熊沢)に永住し現在に至っている。しかし横川木地はこれよりも古い一団がいたようだ。最も後の一団がやってくる元元元年には転出していなかったようだが。(会津地方歴史民俗資料館「木地語りより」(続))

眠りから覚める「やまざくら学校」(4. 15雪阻い撤去)



5-3福島民報

4-22新聞折り込みチラシ



5-6福島民報



戸赤地区の山肌を彩る山桜—5日

のどかな風景に彩り

桜紀行 2017

下郷町の山あいにある戸赤地区は彩り豊かな季節を迎えた。集落カヌラを手にした観光客が大勢訪れている。随では住民が農作業に励むのどかな風景が広がる。山里の暮らした中、ヤマザクラが溶け込んでいる。



【アクセス】会津鉄道会津下郷駅から車で約15分
【問い合わせ】下郷町観光協会 電話0241(69)1144



橋げたが架けられた

れきのひとコマ



白っぽく艶性に乾燥した戸赤産は売れ行きが早い「道の駅しもごう」

(ストーリー性のある村づくりにために[No.42] (…)) 会津の古墳時代の特色 会津では前期の四世紀を中心に会津盆地で古墳が築造された。南会津郡ではまだ古墳の存在は確認されていない。南会津郡は会津盆地に比較して山が多く平地が少なく、また寒冷であることなどから農業生産力が低く、古墳を造営する豪族などの成長がみられなかったと考えられる。前期古墳は会津盆地東部の一箕古墳群(会津若松市)、西部の宇内青津古墳群(会津坂下町)、北東部の雄国山麓古墳群(喜多方市)と会津盆地内の三カ所に集中して分布している。宇内青津古墳群のなかの亀ヶ森古墳は全長一二七mの前方後円墳で、福島県最大、東北地方第二位の前方後円墳である。しかし、中期から後期にかけては古墳の築造は減少し、分布も会津盆地西部に限られてくる。中期に入ると会津盆地の豪族勢力に大きな変化が起こったと考えられる。七世紀には山崎横穴古墳(喜多方市)、駒板新田横穴古墳(会津若松市河東町)など丘陵斜面に横七古墳が造られる。古墳の副葬品である埴輪は、前期古墳の亀ヶ森古墳(会津坂下町)田中舟森山古墳(喜多方市)から円筒埴輪が、後期古墳の経塚古墳(会津坂下町)から円筒埴輪と人物・動物などの形象埴輪が出土している。ただし、古墳の石室や横穴古墳の壁に文様や絵画を描いた装飾古墳は、浜通りや中通りではみられるが会津ではまだ発見されていない。

(「下郷町史—第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典) (続く)